

注目のアプライアンスが続々入荷!

アメリカン逸品堂



渡辺史敏

Photo: Kyoko Watanabe

アメリカでは、いまネットワークを活用したおもしろ製品がどんどん誕生している。

そのなかには感動的な驚きの名品もあれば、「なんだこりゃ?」な迷品もある。

ここアメリカン逸品堂では、毎月入荷する品々の中から店主厳選の逸品をご紹介します!

ポケット通信で メールやウェブが使える

日本でもPDA機やポケットPCといったPDAが話題になっていると聞く。ここアメリカでは、携帯電話でのインターネット利用は日本よりも遅れているものの、PDAを使ったワイヤレスインターネット接続サービスがすでに人気となっている。その代表ともいえるのがここで紹介するOmniSkyだ。

利用するにはPDAに各機種専用のワイヤレスモデムを装着し、専用ソフトをインストールする必要がある。今回テストしたVisor用の場合、ワイヤレスモデムはNovatel WirelessのスプリングモジュールタイプのMinstrelだ。モデムがPalm OS 3.5以降にのみ対応のため、対応機種はVisor Platinum/Prism以降となっている。ほかにもPalm Vシリーズ用やヒューレット・パッカートのJornada用があるほか、CFカードタイプのワイヤレスモデムを使

うコンパクトiPAQ用も用意されている。

モデムはCDPD (Cellular Digital Packet Data) と呼ばれるポケット通信方式のワイヤレスネットワークを使用しており、全米の主要都市161地域で利用可能だ。接続速度は最大19.2kbps。

モデムをスロットにさすと自動的に表示される専用メニュー画面にはYahoo MobileやExcite Mobileといったモバイル機器向けのコンテンツが並ぶほか、メール、ウェブ、検索などが用意されている。また、一般的なメールソフトを使ってPOPサーバーにも接続できる。今回、日本語版Visor Platinumを使用し、PalmScapeやPSMailを使ってみたが、問題なく日本語ページにアクセスしたり、日本語メールを送受信したりできた。

難点を挙げれば、これを使うためのソフト群のメモリー総量は約1MBに達し、システム的にかなり負担をかけることだろう。データの送受信を始めるまでの処理に時間がかかったり、エラーでリセットになることもあった。キャンペーンで無料配布されることも多いが、

300ドルという本体価格や月額40ドルの利用料というもけっこう高い印象だ。最近ではアメリカでも携帯電話が充実してきているので、サービスの本格普及はこれからが正念場になるかもしれない。

PDAでのワイヤレスアクセスを実現!

OmniSky

DATA

メーカー: OmniSky Corp.
価格: モデム: 299ドル
使用料: 月額39ドル95セント
(iPAQは59ドル95セント)

Jump www.omnisky.com



OmniSky向けにCNNやUPSなどによる各種のモバイル用コンテンツが提供されている。モデム上部の赤ランプはメール受信のシグナル。



Visor用Minstrelワイヤレスモデム本体。かなりうしろに出張るデザインになっている。モデムに内蔵の電源は充電式。

DVDを中心にネットを楽しむホーム端末

SurfReady NTV-2500

DATA

メーカー：Neon Technology, Inc.

価格：649ドル

Jump www.neontech.com/products_ntv2500.shtml

ピクチャーフォンもOK！
もりだくさんな機能

先月紹介したマイクロソフトのUltimateTVは衛星放送チューナーを中心にDVR、インターネットを1つにまとめたセットトップボックス(STB)製品だった。今回、紹介するSurfReady NTV-2500もやはりSTBだが、ホームシアターを基本にしている点が異なる。なお、製造元のNeon Technologyは小規模なSTB専門メーカーだ。

まず、DVDプレイヤーを内蔵していることが何よりの特徴だ。MP3、ビデオCDにも対応しており、なんとカラオケまで楽しめるのだ。AV入出力もビデオコンポジットだけでなく、S端子や5.1チャンネルのデジタルオーディオ端子も備えている。

インターネット的なハード面で見てCPU



にMMXペンティアム266MHzを搭載。56Kモデムだけでなく、10/100-BaseTイーサネット、USB、シリアル、プリンターポートなどひととおり揃っている。ソフト面で見ると独自のウェブブラウザはJavaスクリプト1.1.1、SSL3.0、RealAudio5.0に対応している。

機能面も同様で、接続も同社推薦のISPだけでなく、ケーブルやDSLを含めて、ほぼすべてのISPが使える。さらにウェブやメールはもちろんのこと、これらを使いながら同時にピクチャーインピクチャーでテレビ

やDVDを表示させることもできる。さらに付属のデジカメを使って画像を送受信できるインターネットピクチャーフォンサービスまで無料提供されている。通常のSTB製品ではコストと初心者向けという観点から省かれる機能が多いが、このNTV-2500は逆にマニア向けに盛りだくさんといった印象だ。

実際の使用感だが、各機能は簡単に使えるものの、時々表示がズレたり、別メニューにうまく移動できなかったりと、機能を盛り込みすぎたせいか細部での詰めの甘さを感じることも多かった。また、HDDは搭載されておらず、8MBのフラッシュメモリーと32MBのDRAMだけというのはこれだけの機能を備えるだけにちょっと心もとない。荒削りな面が多いが、それだけにこうした意欲的な製品には愛着を覚えてしまう。



このようにウェブをブラウズしながらDVDやTVを表示させることも可能。ただし、解像度の関係からあまり実用的とはいえない。



基本メニュー画面。中央のTVのほかにウェブ、メール、DVDなどを選択できる。「Call」はSurfReady間のみで使えるインターネットピクチャーフォン用。



ひと足早くハヤリモノをcheck!

今月の早目・早耳

モトローラが発売したばかりのポップな配色のこの製品は3月号のこのコーナーで紹介した双方向ボケベル「Talkabout T900」に似ているが、根本的に違うのはこれは携帯電話だということ。写真でもわかるように通話はイヤホンマイクを使う。アメリカでは電磁波対策などの理由でイヤホンマイクが日本より普及している。さらに双方向ボケベルも人気があり、超小型キーボードもポピュラー。そんなさまざまな理由が統合された結果が、日本では考えられないこんな組み合わせを生んだようだ。機能的にはシングルバンドのGSM方式携帯電話が基本になっており、アドレス帳やショートメッセージ(SMS)が使えるのはもちろん、WAP対応のウェブ

ブラウザも搭載されている。しかも、モトローラは同じ形態でさらにパワフルな新製品「Accompli 009 Personal Communicator」を今年後半にも市場に投入する予定だ。こちらはGSM3バンドとGPRS(汎用パケット無線システム)に対応、256色のカラー液晶を搭載し、ウェブのみならず、POP3メール、PIM機能搭載。さらにはアプリケーションの追加も可能という、まさに頂点を狙う内容となっている。果たしてこのアメリカンな路線がどこまで行くか、ちょっと楽しみだ。

ケータイ付きボケベルってアリ!?

Motorola V. Series Personal Communicator Model 100

Jump www.motorola.com/MIMS/MSPG/Products/Two-way/V100/



ほかに色違いが数パターンある。価格はどれも199ドル99セント。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp